

唐に見られる漢語のオノマトペ

王 則堯

Chinese Onomatopoeia of the Tang Dynasty

WANG Zeyao

摘要

在汉语中存在着与日语的拟声词相似的象声词。但是，人们对于拟态这一概念还是十分淡薄。在汉语中也大量拥有着与日语中的拟态词相似的词语。但对于其词性的解释目前还是众说纷纭。对于现代汉语的拟声词的研究已是不胜枚举，而针对古汉语中的拟声词和拟态词的研究还是凤毛麟角。

本稿通过对唐代时期的拟声词和拟态词的总结，从而在其词语的意义上进行分类。另外，在日语的拟声词和拟态词中，也存在着借用汉语词汇的现象。笔者通过调查日本的国语辞典中借用汉语词汇的拟声词和拟态词的收录情况进行分析。

【キーワード】

漢語 オノマトペ 象声詞 中古漢語

1. はじめに

本研究は、日本古典語に見られるオノマトペが当時広く流通していたと考

えられる中古漢語の語彙が日本古典語のオノマトペに影響を与えたのではないかという視点からの基礎研究である。漢語には、「象声詞」という日本語の擬音語、又は狭義の擬声語に相当するものがあるが、擬態という概念が存在していない。しかし、日本語の擬態語に相当するものがないというわけではない。これまで行われてきた研究は、主に現代語を対象としており、中世・近代漢語を対象とした研究は少ない。そこで、劉堅・江藍生（1997）『唐五代語言詞典』を資料として中国の中世・近代漢語のオノマトペについて検討する¹⁾。

上記の劉・江（1997）に挙げられている漢語のオノマトペは、「象声詞」とされているが、それ以外に、「～貌」（さま、様子に相当する）のように、品詞名が記されていないものもある。本稿では、これらをまとめて擬態語とし、その意味的な分類を行う。形式的な分類に関する先行研究は、かなり進んでいるが、意味的な分類に関する研究は、管見の限り見当たらない。そこで、本稿では擬態語の意味的な面を中心にして検討する。

さらに、漢語のオノマトペの中には、日本語の語彙に入っている「侃侃諤諤」、「興味津津」といったような、所謂、漢語オノマトペも存在しているが、これらについても、『日本国語大辞典』に収録されているかどうかについて調べることにする²⁾。

2. 漢語のオノマトペについて

2.1 漢語のオノマトペの品詞

本稿では、中国語の擬声語を「漢語のオノマトペ」と呼ぶことにする。しかし、漢語のオノマトペがいかなる品詞に属するかに関しては、様々な説がある。日本語のオノマトペは通常、副詞とされるが、漢語のオノマトペは副詞として取り扱われることもあれば、形容詞と見なされることもある。耿二玲（1986）は、これまでの説について、以下のようにまとめている³⁾。

副詞として見なしているものは、馬建忠（1898）『馬氏文通』、陳承澤（1922）『国文法草創』、黎錦熙（1923）『新著国語文法』、章士釗（1935）『中

等国文典』などが挙げられる。

形容詞としているものは、呂叔湘（1942-1944）『中国文法要略』、任銘善（1956）『語文短札』、史存直（1972）『語法三輪』、張静・張桁（1979）『古今漢語比較語法』、張静（1979）『現代漢語』、黄伯榮・廖序東（1979）『現代漢語』、呂叔湘（1980）『現代漢語八百詞』などが挙げられる。

その他、副詞や形容詞としているもの以外では、感嘆詞、特殊詞、独立詞としているものもある。諸説紛々としている。

2.2 漢語のオノマトペの分類

2.2.1 現代漢語のオノマトペの分類

これまでの研究は、形式的な分類を主としている。例を挙げると、馬天祥（1980）『略論漢語擬声詞的独立性』においては、形式上「A」「AA」「AB」「ABB」「ABAB」「AABB」「ABCD」「AXAB」の8種類に分けている⁴⁾。

2.2.2 古典中国語のオノマトペの分類

劉玲（2015）は、古典中国語におけるオノマトペを、漢字一字、二字、三字、四字の4種類に分けている⁵⁾。そのうち、漢字二字を、接尾辞型、重言型（關關）、双声型（參差）、疊韻型（窈窕）と下位分類し、さらに、接尾辞型を虚辞型（～焉、～乎、～爾、～然）と接辞型（～若、～如）に分類している⁶⁾。

3. 唐に見られる漢語のオノマトペ

3.1 擬態語の割合

『唐五代語言詞典』に収録されている漢語のオノマトペは、318語である。その中で、「象声詞」と明記されている単語は、わずか29語である。それ以外は、前述の「～貌」（さま、様子に相当する）のような、人間の様子や心理状態を描写したりする言葉であり、約90%を占めている。つまり、唐における漢語のオノマトペは、ほぼ擬態語であるということになる。

3.2 唐に見られる漢語の擬態語の分類

これまでの研究では、主に形式的な分類が行われてきた。この節では、意味的な観点から分類を行う。唐に見られる漢語のオノマトペは、大多数が擬態語なので、擬態語を対象として分類する。

意味分類を行う際に、大きく、人間に関するもの、動物に関するもの、物事に分けた上で、その下位分類を行う。例えば、人間にかかわる擬態語を、感覚、行為、心理状態などといったカテゴリーに分類する。さらに、心理状態について、例を挙げると、意気軒昂としているさまを表す擬態語を、「ポジティブ」にするのに対し、失意のさま、悩み憂えているさまなどを、「ネガティブ」に下位分類する。

3.2.1 人間

表1 唐に見られる漢語の擬態語の下位分類（人間篇）

| 上位 | 下位 | カテゴリー |
|------|-------|--|
| 感覚 | 痛み | 寒風が骨にしみるさま。 |
| 行為 | プラス | 懇切丁寧であるさま、清新で優美であるさま、元氣澁刺であるさま、こせこせしないさま、勇ましいさま、洞察するさま。 |
| | マイナス | ぼうっとしているさま、乱暴で喧嘩しがちであるさま、酔っぱらってぼうっとしているさま、傲慢不遜であるさま、振る舞いが下品であるさま、遠慮がないさま。 |
| | 喜怒哀楽 | むっとしているさま、笑うさま、喜ばしいさま、驚き怯えるさま、待ち望んでいるさま。 |
| 心理状態 | ポジティブ | 意気軒昂としているさま、血氣盛んであるさま、誠意が感じられるさま、闊達なさま、毅然としているさま、心静かであるさま。 |
| | ネガティブ | 躊躇しているさま、悩み憂えているさま、失意のさま、憔悴しているさま、意気消沈しているさま、落ち込んでいるさま、尻込みするさま、物寂しいさま、(音)または心が乱れているさま。 |

| | | |
|-----|-------|---|
| 身体 | 頭 | 禿げているさま、頭が丸くてすべすべとているさま。 |
| | 髪 | 髪がグレーであるさま、髪が垂れ下がっているさま。 |
| | 口 | 咀嚼するさま、ぽかんと口を開けているさま、諄いさま。 |
| | 息 | 息を殺しているさま、息が弱々しいさま。 |
| | 顔 | 顔が真っ赤であるさま。 |
| | 手 | 琴を弾いているさま。 |
| | 足 | よろめくさま、ぶらつくさま、ふらふらと歩いているさま、飛び上がりさま。 |
| | 全身 | 震えるさま、ゆったりしているさま、もがいているさま、ゆっくりと移動するさま。 |
| その他 | プラスの | 艶めかしいさま、体格が堂々としているさま、利口であるさま、穏やかなさま、安穩としているさま、賑やかなさま、耳に快いさま。 |
| | マイナス的 | 矮小なさま、醜いさま、太っているさま、ぼろぼろなさま、頭が混乱しているさま、愚かなさま、危篤であるさまこせこせしないさま。 |
| | 中立的 | 痩せているさま、緩慢なさま、飢えているさま、じっとしているさま、慌ただしいさま、絶えず人が往来しているさま。 |

3.2.2 動物

動物に関するオノマトペは、非常に少ない。ここでは、表にせず、以下のようにまとめる。

鳥：羽ばたくさま、絨毛がぼうぼうと乱れて開いているさま。

馬：駆け回るさま。

3.2.3 物事

表2 唐に見られる漢語の擬態語の下位分類（物事篇）

| 上位 | 下位 | カテゴリー |
|-----|------|--|
| 抽象的 | 明るさ | 明るいさま、暗いさま、光り輝くさま。 |
| | 寒さ | ひんやりしているさま。 |
| | きれいさ | 整然としているさま。 |
| | 多さ | 夥しいさま。 |
| | 速さ | 速いさま。 |
| | 厳密さ | 厳密であるさま。 |
| | 堅さ | 堅いさま。 |
| | 静かさ | 静まり返っているさま、ひっそりとしているさま。 |
| | 大きさ | 巨大なさま。 |
| | 透明さ | 透き通るさま、朦朧としているさま。 |
| | 易しさ | 容易いさま。 |
| 具体的 | 色 | 鮮やかな色彩、雑色、むらがない、色がはっきりとしないさま、赤いさま、黒いさま、白いさま。 |
| | 山 | 高く切り立っているさま。 |
| | 水 | 水が滴るさま、満ちるさま。 |
| | 匂い | 汗の臭いが衝くさま。 |
| | 雪 | はらはらと落ちるさま。 |
| | 草木 | 草木が生い茂り、一面に広がっているさま、漂っているさま、草木が凋んで落ちているさま。 |
| | 煙 | 煙、埃が濃厚であるさま、煙が充満しているさま。 |
| | 雨 | 小糠雨が舞っているさま。 |
| | 音 | 微かであるさま。 |
| | 衣類 | だぶだぶとしたさま。 |
| | 対義関係 | 遍く囲むさま、密集しているさま、群がって取り囲むさま、分散しているさま。 |

4. 重言型のオノマトペ

唐に見られる漢語のオノマトペ 318 語の中で、著しく多いのは、重言型（一つの漢字を繰り返す漢字二字の AA 型）であり、113 語に上る。そのうち、42 語が日本語の語彙に入っており、『日本国語大辞典』にも収録されている。

この節では、『日本国語大辞典』と『唐五代語言詞典』に収録されている同一のオノマトペの意味と用例をいくつか取り上げ、それぞれの使い分けについて検討する。なお、本稿で用いた『日本国語大辞典』は、Japan Knowledge バージョンである⁷⁾。

4.1 『日本国語大辞典』に収録されている重言型のオノマトペ

唐に見られる重言型のオノマトペの中では、以下の 42 語が日本語の語彙に入っている。

惨惨、測測、草草、蒼蒼、楚楚、簇簇、滴滴、垂垂、憧憧、重重、刺刺、促促、的的、堆堆、分分、聒聒、浩浩、轟轟、交交、矻矻、離離、歴歴、瀝瀝、了了、漫漫、冪冪、喃喃、盤盤、蓬蓬、片片、悄悄、区区、確確、穰穰、颯颯、騷騷、稍稍、騰騰、帖帖、汪汪、惺惺、喧喧。

4.2 重言型のオノマトペの和漢比較

例 1：「測測」

・日本語：ソクソク

①あわれみ悲しむさま。身にしみて感じるさま。

*長塚節歌集（1917）〈長塚節〉明治三八年

「其言測々として動かす」

②寒さなどの身にしむさま。

*韓偓－夜深詩

「測測軽寒剪剪風」

・漢語：cè cè

清寒的感觉。（筆者訳：ひんやりしているさま）

*韓偓『寒食夜』詩：

「測測輕寒翦翦風，杏花飄雪小桃紅」

*韋應物『再遊西山』詩：

「測測石泉冷，暖暖煙谷虛」

例1で示したように、日本語側では、身にしみて感じるさまを表すほかに、寒さをも表す。一方、漢語側では、ひんやりしているさましか表していない。しかし、寒さを表す例文は、両方とも「測測輕寒翦翦風」が挙げられている。ここから見ると、「測測」は、日本語の語彙とされているが、実例が限られている。

例2：「刺刺」

・日本語：シシ

心身を責めさいなむさま。

*浄瑠璃・天神記（1714）天尽し

「今、菅丞相が無実の罪に沈んで、恨みの念力、切切刺刺として切るが如く刺すが如し」

・漢語：cì cì

①寒風刺骨貌。（筆者訳：寒風が骨にしみるさま）

*李商隱『送牛李將軍赴闕』詩：

「去程風刺刺，別夜漏丁丁。」

②言語繁多的様子。（筆者訳：諄いさま）

*韓愈『送殷員外序』

「持被入直三省，丁寧顧婢子，語刺刺不能休。」

例2で示したように、日本語側では、「心身を責めさいなむさま」を表すのに対し、漢語側では、「寒風が骨にしみるさま」、「諄いさま」という多義語を表す。意味が異なる例は、例3にもみられる。

例3：「堆堆」

・日本語：タイタイ

積み重なっているさま。

* 中華若木詩抄（1520 頃）

「紡車山のあたりには、雪が堆々とある也」

・漢語：duī duī

不動貌。（筆者訳：じっとしているさま）

* 韓愈『路旁堠』詩：

「堆堆路旁堠，一雙復一雙，迎我出秦關，送我入楚澤。」

例3で示したように、日本語側では、「積み重なっているさま」を表すのに対し、漢語側では、「じっとしているさま」を表す。

例4：「憧憧」

・日本語：シヨウシヨウ／ドウドウ／トウトウ

絶えまなく行き来するさま。また、落ちつかないさま。

* 土井本周易抄（1477）四

「まだ初心な程に、先づこちが感じて憧々として往来せうぞ。あちからは、まだ友はこまいぞ」

・漢語：chōng chōng

往来匆忙の様子。（筆者訳：絶えず行き来するさま）

* 白居易『和大觜鳥』詩：

「慈鳥而奚為，來往何憧憧，曉去先晨鼓，暮歸後昏鐘。」

例4で示したように、前述の例と異なり、意味が全く同じである場合もある。

例 5：「滴滴」

・日本語：テキテキ

水のしずくなどが、したたり落ちるさま。水滴などが短い間隔をおいて続けて落ちるさま。

* 正法眼蔵（1231－53）行持下

「おつるなみだ滴滴こほる」

* 山の力（1903）〈国木田独歩〉

「滴々として水の滴るのを聞くばかりです」〔令孤楚－賦山詩〕

・漢語：dī dī

① 盈盈欲滴貌、形容嬌美。（筆者訳：艶めかしく美しい）

* 張彦謙『留別』詩之二：

「野花紅滴滴、江燕語喃喃。」

② 象声詞。状水滴声。（筆者訳：擬音語。水の滴る音に擬える）

* 劉得仁『和鄭校書夏日遊鄭泉』

「來聞鳴滴滴、照竦碧沈沈。」

例 5 で示したように、両者とも水滴を対象とされているが、日本語側では、滴るさまという擬態語とされるのに対し、漢語側では、滴る音という擬音語とされている。また、漢語側では、艶めかしく美しいさまを形容するという擬人化の意味もある。

上記に取り上げた唐における漢語のオノマトペは、いずれも重言型であり、日本でも受容されている。意味的な面からすると、共通している所もあれば、異なる場合もある。また、日本で受容されている漢語のオノマトペの特徴は、大多数が擬態語である。

5. おわりに

本稿の前半は、擬態語を中心とした意味的な分類を行うことによって、唐

に見られる漢語のオノマトペの基礎研究を試みた。後半は、和漢比較の観点から、重言型のオノマトペを主とし、それぞれの使い分けについて論じた。しかし、日本で受容されていない重言型のオノマトペもある。これらのオノマトペの特徴をまとめるのを今後の課題とする。

注

- 1) 劉堅・江藍生（1997）『唐五代語言詞典』上海教育出版社出版 1997.11
- 2) ここで言う「漢語オノマトペ」は、中国から借用した日本語のオノマトペを指し、本稿で取り扱う「漢語のオノマトペ」は、中国語における固有のオノマトペを指す。
- 3) 耿二玲（1986）『漢語擬声詞』湖北教育出版社出版 1986.12 pp21-26
- 4) 耿二玲（1986）『漢語擬声詞』湖北教育出版社出版 1986.12 p26
- 5) 劉玲（2015）『漢語オノマトペの受容について』学苑出版社出版 2015.1 p31
- 6) 劉玲（2015）『漢語オノマトペの受容について』学苑出版社出版 2015.1 p32
- 7) <https://jpanknowledge.com/lib/search/basic/>